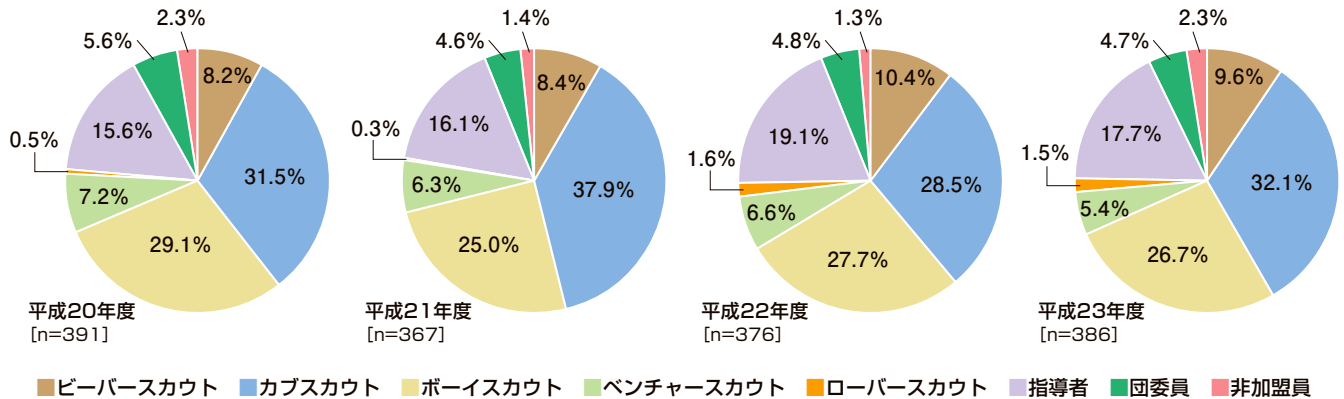


「ストップ ザ ケガ」キャンペーン

標語・レポートを大募集中

● 保険申請に見る部門別事故発生率の推移



安全委員会では、共済制度・そなえよつねに保険の保険申請をとおして事故分析を行ってまいりました。また、平成21年度より開始した安全促進フォーラムは基幹フォーラムをのべ17県連盟〔24年度末まで〕で実施。拡大フォーラムも13回〔24年12月まで〕実施していただきました。安全促進フォーラムではデータ分析した資料を発表し、いかにして事故が発生したのか、今後、事故をどのように回避・軽減していくのかを討議してまいりました。

さらに、指導者全員に事故分析の結果を共有していただくためにシリーズ「野外活動のための安心・安全講座」をスカウティング誌で発表してきました。ここではまず、指導者の事故に対する注意喚起を行いました。平成23年9月号では「減少しない指導者の事故」と題し、共済制度が始まった平成17年度以降の5年間、全事故に占める指導者の事故件数が平均22%という高い割合で推移していること、その特徴としては半数以上が「骨折」というデータを紹介し、年齢相応の活動をお願いしました。同年11月号「指導者自身の安全の確保を」では、実際に発生した事故事例を紹介し、指導者自身の安全確保にも留意していただくようお願いしました。

指導者・スカウトに関わらず、事故には季節的な特徴もあります。平成24年に入ってから、活動計画の安全対策に役立てていただくために、冬期、夏期、秋期の季節ごとに特徴のある事故事例を掲載しました。すでに団では、掲載された記事を参考に、活動に役立ててくださっているのではないかと推察いたします。

その結果、徐々に成果が上がってきていると確信しています。これは、指導者・スカウト全員が安全対策を徹底して活動している証と考えています。年度末を迎え、平成25年度はさらに気持ちを引き締め事故・ケガのない冒険的で楽しいプログラムを各団で実施していただきたいと願っています。

そこで、平成25年度は、「ストップ ザ ケガ」キャンペーンとして「標語」や「実践レポート」を募集いたします。

活動中の事故には、後で思えばあの時こうしておけばよかったと考えられる事故の要因がいっぱいあると思います。ちょっとした隙間に隠れているケガの要因、それを洗い出してみようではありませんか。指導者はもちろん、スカウトも参加できます。

【募集要項】

募集期間 平成25年4月から
平成25年12月末まで
3か月ごとに安全委員会で集計・選出

募集内容 「標語」および「レポート」

標語：常に心に届く警鐘となるもの

【事故ゼロ運動標語例】

○ よしやるかもう一回 言うは易しい
事故多発 等

【保険申請にみる、指導者の骨折受傷率の高さについての標語例】

○ 頭では 軽いと思うが 重い足
○ 昔とは 同じに動かぬ 気と身体 等

レポート：団・隊における実践事例

こうして我が団はケガのない冒険的で楽しいプログラムを実施しています。あの時こうしていればケガがなかった等各団の実施・具体例を送ってください。

文字数400～1000字程度でおまとめください。
※指導者、スカウトどなたでも参加いただけます。
※所属団名・役務・氏名を添えて応募下さい。応募いただきましたものは、返却いたしません。
※応募は、メールまたは郵送にてお願いします。
※応募用紙など、日本連盟ホームページでも提供していますが、これ以外も受け付けます。ただし、テキスト文書かワード文書などでご応募ください。

応募・問い合わせ

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
「ストップ ザ ケガ」キャンペーン係
〒113-8517 東京都文京区本郷1-34-3
Tel 03-5805-2585 Fax 03-5805-2901
Eメール anzen@scout.or.jp

※選出された作品の応募者には記念品をお送りいたします。
※選出された作品は、日本連盟ホームページ、スカウティング誌で発表いたします。